



学校だより ウルムス

～友達を思いやり、友達とひびき合う心～

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamariyaminami/>

平成28年9月30日

10月号

横浜市立釜利谷南小学校

校長 鈴木 秀一

「す、あ、げ」のあいさつ運動 ～学校でも家庭でも地域でも～

校長 鈴木 秀一

《横浜子ども会議》先月号でもお知らせしましたが、8月30日（火）金沢区全体の横浜子ども会議に6年生の下川和香奈さんが参加しました。金沢区内の横浜市立小・中学校33校から代表が集まり「だれもが安心して生活できるいじめのない子ども社会をつくろう」というテーマで話し合いました。その様子を下川さんが9月26日の朝会で全校児童の前で報告しました。下川さんが参加したグループでも中学生が小学生をリードしながら活発に話し合い、「仲良くなること」「気持ちを伝えること」の大切さを共有し、最後に「あいさつで 明るく照らそう 学校を」という標語を作ったということでした。



〈朝会で話す下川さん〉

本校の学校教育目標の合言葉は毎月の「学校だより ウルムス」の標題下に書かれているように
～友達を思いやり、友達とひびき合う心～ です。

その実現に向けて「あいさつ運動」に力を入れて取り組んでいます。毎朝、校長、副校長、児童支援専任、養護教諭、個別支援級担任を中心に児童を迎えています。毎月、学年代表児童が輪番で登校してくる児童を校門であいさつをして迎えています。児童会でも「す、あ、げ」（すすんで あいての顔を見て げんきに）の標語を決めて取り組んでいます。ただ、なかなか定着せず、あいさつをされても返せない児童が少なくないことを私は憂っていました。

9月26日の朝会は副校長があいさつについて講話をしました。「目を見て」「体を向けて」「元気に」「〇〇さんを付けて」の4点を話し、実際に実験と称して二人組でやってみました。その後上記のような下川さんからの横浜子ども会議の報告でした。あいさつについての話が重なりました。

その翌日、校門に立つのを楽しみにしていました。「おはようございます。」と児童からあいさつがきました。体感的には、普段児童からあいさつがくるのは全校児童の10%くらいですが、今日は倍以上の20～30%くらいでした。残りの児童もこちらからの声掛けにあいさつが返ってきました。その声がいつもより元気で大きかったです。これも体感ですが声の大きさは約2～3割増です。「校長先生、おはようございます。」と名前を付けたあいさつをする児童も約10人いました。あいさつを返せない児童は減りました。翌日もそれが続きました。2日連続でとても気持ちのいい朝をスタートすることができました。明日も続くのでしょうか。校門に立つのが楽しみです。

あいさつの話を朝会や学校保健委員会ですると、その後少しの間は意識してあいさつができるようになります。でも、それが1週間もすると膨らませて置いておいた風船のようにしぼんでいってしまいます。今回はいつまで続くのでしょうか。楽しみにしていると同時に私たち大人がそこに空気を送り込み続けていくことも大切です。来週終業式がありますので、またあいさつの話を入れて講話をします。指導を続けることが継続的なあいさつに繋がります。あいさつすることが当たり前で習慣になるまで言い続けることが必要だと考えています。明るく元気なあいさつがひびき合うそんな学校にしたいです。



〈朝会講話の内海副校長〉

あいさつの指導は学校だけでは足りません。ご家庭でも、家族とのあいさつ、まちで知人と会った時のあいさつなど折に触れ話し、実践していただくことで、学校での指導との相乗効果が図れるのではないのでしょうか。登校してきておはようと声を掛けられてもおはようと返せない児童がいると少し心配になってしまいます。大人になってもあいさつはコミュニケーションの基本だと思います。この機会に是非ご家庭でもあいさつについて話題にしてほしいと思います。学校・家庭・地域が一つになり児童のあいさつの風船に空気を入れ続けていきましょう。是非、ご協力よろしく願いいたします。